



信州大学 経済学部同窓会報

創刊号

発行者 信州大学経済学部同窓会
同窓会事務局 〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
信州大学経済学部内
TEL・FAX 0263-37-2309

平成17年11月3日発行

E-mail : dousou@econ.shinshu-u.ac.jp
URL : http://www.econ.shinshu-u.ac.jp/index.html

会長あいさつ

同窓会長 矢口晋司
(1978年入学)

信州大学経済学部同窓会員の皆様におかれましては、各分野で広く活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は母校の発展に何かと関心をいただきありがとうございます。

さて私、昨年十一月三日に開催されました総会で、伊東前会長の後を受けて同窓会会長に就任いたしました。昭和五十七年三月経済学部同窓会発足以来、役員として名前はずっとつらねてきたものの、同窓会活動への参加はけっして奮められたものではなく、こんな自分が同窓会会長という大役をお引き受けして良いのか悩みましたが、諸般の事情から次への繋ぎ役として、同窓会活動の路線づくりに一役係わらせて頂くとの意を込めてお引き受けをした次第であります。

そこで私は、次の二点を重点に同窓会活動を展開していきたいと考えております。

第一に、同窓会からの情報発信の活性化です。これまで同窓会員の皆様に対する情報伝達の手段をなかなか提供することが出来ず、ご心配ならびにご迷惑

をお掛けしてきたところですが、この度「同窓会報」を年二回程度発行することを、先の理事会にて決定して頂き、今回の記念すべき第一号となりました。今後、同窓会員の皆様のご意見も頂きながら内容の充実、改善に努めていきたいと思っております。また、同窓会ホームページも内容を見直し、タイムリーな情報発信に努めるとともに、同窓会員の皆様からの意見集約にも活用していければと考えております。

二つ目は母校信州大学並びに経済学部発展への連携支援であります。信州大学は平成一六年四月独立行政法人として新たなスタートを切りました。少子化という時代の流れを受け、大学生の減少が懸念される厳しい環境下での出発です。時を同じく各学部同窓会が連携し、母校の発展に寄与することを目的として、信州大学同窓会連合会が設立されました。経済学部同窓会もその設立趣旨に賛同し参画させて頂いたところでありますが、具体的活動については今後検討を重ねていくこととなっております。自然環境に恵まれた信州大学の魅力を如何に理解していただく

か、自分達が学んだ信州大学の素晴らしさを如何に受験生や相談相手となるご両親、先生方に伝えていくか、といった視点からの検討も必要となってくるでしょう。私のように、ずっと信州、松本の地に住み着いて生活しているものにとってはその魅力や素晴らしさを、また改善していかなければならない課題点といったものも見落としがちになつてしまふわけで、日本各地で活躍されている同窓会員の皆様方から学生時代の思い出も踏

同窓会報発刊にあたって

学部長 柴田匡平

またご意見を頂き、母校支援の検討材料とさせて頂きたいと考えております。

これまで同窓会の運営につきましてはは経済学部の先生方に頼りつきり、というのが実態であったことを反省しつつ、今後は同窓会として経済学部発展のため全面的に支援してゆく体制作りに全力を注ぎたいと考えております。そのためにも経済学部同窓会員の皆様方のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

このたび同窓会報のご発刊にあたり、経済学部教職員一同になりかわりまして心よりお祝い申し上げます。本学部は大正八年四月に設置されました旧制松本高等学校を淵源とし、戦後の学制改革による新制信州大学の発足(昭和二十四年五月)にあたり文理学部社会科学科として、社会科学を専攻する教育研究組織としての産声を上げました。その後人文学部経済学科(昭和四一年四月設置)を経て、昭和五三年六月に念願の学部創設を果たし、平成一〇年の創設二〇周年を経て、平成一六年には創設二五周年の記念事業を開催い

いたしました。本年四月現在、人文学部時代からの学部卒業生は六一五三名、大学院卒業生は一三名に及び、学部・大学院で学ばれた方々が各界において活躍なさつておられますことは、学生諸君ならびに教職員にとりまして、大きな誇りとするところでございます。

学部創設時には経済学科のみで発足いたしました。平成元年に修士課程経済・社会政策科学研究科が設置されて社会人大学院の全国的な先鞭をつけたのに続き、平成七年には学部を経済システム法学科を設置いたしました。さらに平成一五年には

大学院に独立専攻イノベーション・マネジメント専攻が発足して二専攻体制となり、信州大学工学部からの協力講座によって文理融合型の経営大学院を長野市若里の工学部キャンパスに開設いたしました。本年五月一日現在で、経済学科には六九八名、経済システム法学科に三六二名、経済・社会政策科学研究科に六六名が在籍しております。また留学生は学部在五六名、大学院に二名が在籍し、松本での勉学にいそしんでおります。職員は教授二〇名、助教授五名、講師六名、助手四名、事務職員一二名を数えております。

こうした発展にともない、平成十一年七月には人文文学部との共用にかかる五階建ての新講義棟が西側の旧ボイラー室跡地に竣工し、LANジャックを装備した二七五席の扇形講義室や演習室、大学院生室に加え、図書資料室の一本化が図られました。さらに翌年には旧講義棟と学部棟の外装が一新されました。西門の左手にあった築山は芝生となり、移植された樺や桜の若木が根付いて、新学期には可愛らしい彩りを添えてくれるようになりつつあります。このように景観に多少の変化はありますが、授業の時報はいつにも変わらぬビッグ・ベンのチャイムが響いております。

教育面では、設置時の目的として掲げられた「戦後の日本経

済社会に的を絞った政策志向型の実証研究と、それに基づく教育」の追求を基盤に、個性重視の入試改革や社会人客員講師団の結成、政策官庁との人事交流を経て、「大学から社会へ、社会から大学へ」のキーワードのもと、産業論特論やインターンシップなど、実務と理論の架構を試みてまいりました。また、同窓会の協力のもと、本学部卒業生の皆様に講師にお迎えして行なわれるOB講義は、就職活動を控えた学生諸君にとりまして非常に有意義な授業となっております。

さて平成一六年度に国立大学は法人化という制度面での大変革を迎えました。いわば護送船団方式から規制緩和と競争の時代に突入し、各国立大学は個別の事業体としてマネジメント的発想が求められるようになっております。そのことを端的に示すのが財務会計の導入ですが、信州大学の初年度決算が黒字とはいえ、法人化にともなう特殊要因が大きく、今後の採算は予断を許さない情勢です。大学全体として学部におけるブランド構築がいつそう必要になるものと思われれます。

このような時期にあたり、本学部が申請母体となつて設置された法科大学院をめぐる問題が発生したことは、本学部に対する信頼を毀損し、卒業生の皆様に多大のご迷惑とご心配をお掛

けするところとなりました。深くお詫び申し上げます。学部教授会においては、このような問題の再発を防ぐため学部改革委員会を発足させ、今後の改善に向けて鋭意検討に入っております。とくに懸念されましたことのひとつに、今年度の就職活動に影響が及びはしないかという点がございました。しかし幸いにも、この問題による影響はほとんど無かったように感じております。これはひとえに各界における卒業生皆様のご活躍が培つてこられた信頼と高い評価の賜物にほかならず、まことに有難く厚く感謝申し上げます。

法人化以後の国立大学をめぐる制度的側面は大きく変化いたしました。経済社会のアクチュアルな側面に重点を置いて研究と教育をめざす学部の基本理念に変わりはございません。これからも改革指向型の学部をめざしいつそうの充実を図る所存でございます。同窓会の皆様のいっそうのご活躍をお祈り申し上げますと共に、本学部の最も強力な応援団として今後ともご高配を賜りますようお願い申し上げます。

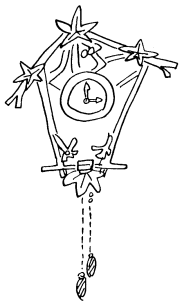
経済学部同窓会総会報告

日時：平成16年11月3日（水）

午後1時より

場所：信州大学経済学部新棟6階会議室

- 1 開会（矢口副会長）
- 2 会長挨拶（伊東会長）
- 3 名誉会長挨拶（又坂経済学部長）
- 4 来賓挨拶（北澤文理学部同窓会長）
- 5 議長選出 12 L高木保夫さんを選出
- 6 書記ならびに議事録署名人の任命
書記に22 K川田智弘さん、議事録署名人に9 K田丸徹郎さん、3 K手塚伸さんを任命
- 7 議事
 - (1) 事業報告および会計報告の承認について
 - ・伊東会長より原案を説明。
 - ・粟澤監事より会計監査報告（質疑応答）
 - ・同窓会会費未納者の納入方法について
 - ・随時納入は可能。未納者に対する納入依頼は今後も機を見て実施予定。
 - ・経済学部活動支援金の資金使途について
 - ・産業論特論等の公費で賄えない部分への支出、法科大学院設置に向けての準備金、等。
 - (2) 同窓会会則の改定について
 - ①「第9条 3 理事」の人数について「各卒業年度二名」を「若干名」に変更。
 - ②「第9条 4 幹事」の人数について「若干名」を「各卒業年度二名」に変更。
 - ③「第11条 4 幹事」の選出方法について「必要に応じて会長が委嘱する」から「会長が正会員中より選出し委嘱する」に変更。
 - ・以上3点の変更案を伊東会長より説明。
 - ・全員の拍手により原案承認される。
 - (3) 予算および事業計画について
 - ・経済学部活動支援金の支出について、百万円を予算化する旨伊東会長より説明。
 - （但し収入状況により金額の見直しはその都度実施する旨補足）
 - ・全員の拍手により原案承認される。
 - (4) 役員の選出について
 - ①会長に3 K矢口晋司さんを



経済学部同窓会理事会報告

- 選出。
② 監事に3 K伊東一雄さん、22 K川田智弘さんを選出。
(5) その他
・ 文学部社会科学科卒業生を同窓会名簿に掲載する旨説明。
・ 信州大学同窓会連合会に関する経過を報告。
議長退任
新旧役員挨拶

日時 平成17年7月16日(土) 午後3時より

場所 信州大学経済学部 研究会 会室

- 1 開会(樋口教授)
2 同窓会長挨拶(矢口会長)
3 名誉会長挨拶(柴田経済学部長)
4 報告事項
(1) 16年度同窓会総会報告について
(2) 信州大学同窓会連合会について
・ 設立経過、三回の設立準備委員会ならびに二回の同窓会連合会役員会の内容報告を矢口会長と伊東監事より行う。
・ 同窓会連合会の運営経費として初年度七万円の拠出を求められている事について意見交換。

- 10 閉会(平林副会長)
◎予定どおり午後2時に閉会となる。
◎午後2時より新棟1階大講義室にて、金子勝 慶応義塾大学経済学部教授による経済学部創立25周年記念講演会を開催。
◎午後4時40分より経済学部新棟6階会議室にて、経済学部創立25周年祝賀パーティーを開催。(会長)
↓ 拠出については理事会として了承するが、資金使途の報告確認の実施、単年度精算方式による割戻しの検討等の意見が出される。
◎8月12日同窓会連合会より運営経費拠出正式要請を受ける。17年度は既に半年経過したこともあり、拠出金額は三万五千元となる。
(3) 信州大学東京同窓会について
・ 平成17年2月5日(土)に東京で開催された東京同窓会について、来賓として参加した矢口会長、伊東監事より報告。
・ 今後、同窓会報等を通じ、同窓会会員へ参加を呼びかける事を確認。
◎会則に従い、矢口会長を議長以下について協議。
5 協議事項

- (1) 同窓会名簿の取扱いについて
・ 個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)公布後初の名簿作成となることから対応を協議。
・ 名簿作成の必要性を認識しつつ、個人情報の取扱いについては慎重を要すことを確認。
・ 個人情報の使用目的を明確にする事、名簿への記載各事項は会員の同意を得る事、名簿の配布先は原則会員に限定する事、名簿送付の際に、個人情報守秘義務は会員にもあることを認識してもらおう事、個人情報の管理の徹底、といった意見が出された。
↓ 理事会での意見を元に、個人情報取扱いについて整理を行った上で、同窓会名簿を作成することを確認。
(2) 同窓会活性化策について
・ 同窓会報を作成(年二回程度)することを決定。
・ 同窓会役員と経済学部との情報交換、意見交換の必要性を確認。
(3) その他
・ 同窓会事務局で使用している、パソコン及びOAソフトの更新について了承。
◎議長退任
6 閉会(矢口会長)
◎午後5時に閉会となる。(会長)

平成12年度会計報告

平成13年度会計報告

Table with financial data for Heisei 12. Includes sections for Income (収入の部), Expenses (支出の部), and Balance Forward (次年度繰越金). Total income: 14,347,226; Total expenses: 2,320,771; Balance forward: 12,026,455.

Table with financial data for Heisei 13. Includes sections for Income (収入の部), Expenses (支出の部), and Balance Forward (次年度繰越金). Total income: 15,876,187; Total expenses: 2,388,720; Balance forward: 13,487,467.

平成12年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成13年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成16年11月3日

平成16年11月3日

監事 栗澤 撤 回

監事 栗澤 撤 回

平成14年度会計報告

平成15年度会計報告

Table with financial data for Heisei 14, including income and expenditure sections.

Table with financial data for Heisei 15, including income and expenditure sections.

平成14年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成15年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成16年11月3日

平成16年11月3日

監事 栗澤 徹 印

監事 栗澤 徹 印

平成16年度会計報告

Table with financial data for Heisei 16, including income and expenditure sections.

平成16年度会計監査の結果、適正であると認めます。

平成17年7月16日

監事 伊東 一雄 印

監事 川田 智弘 印

個人情報の取扱いについて

ご承知のとおり、今年4月から個人情報保護法が施行され...

- 1 個人情報の使用目的の掲載
2 名簿の取扱い
①名簿への記載各事項は会員の同意を得る
②名簿の配布先は原則として会員に限定する...

同窓会名簿は、会員相互の交流・親睦や同窓会活動の基盤となるものであり、またその一環として在学生(入学時に入会手続および会費納入をおこなっている準会員)の就職活動にも利用されることがございます...

(事務局)

- 3 個人情報の管理
①上記使用目的以外に個人情報を使用しない
②データベース等の一層の安全管理をはかる
③新しく会員になる方には、個人情報の使用について事前の了解を得るとともに、名簿守秘義務の周知徹底をはかる

卒業生による講義——「現代の産業・社会事情」

各界で活躍されている経済学部OBによる講義科目「現代の産業・社会事情」が、1992年度以降、毎年開かれてきています。多くの業界から毎年10~12人の先輩諸氏を母校にお招きし、それぞれの業界の特質や動向、自らの仕事上の経験、社会人に必要な心構えなどを、後輩諸君にご講義いただいております。学生諸君にとっては、親近感のもてる先輩による職業案内を兼ねた業界研究であり、大変好評で、毎年大講義室が満杯の盛況です。ただ残念なことに、独立行政法人化に

ともなう非常勤講師削減策の影響で、2004年度以降隔年講義になりました(2004年度休講、2005年度開講)。過日の理事会では、同窓会のネットワークを使って、この講義の支援をしたらどうか、手弁当でもかまわない、など、ありがたいご意見をいただきました。いずれにせよ卒業生のご支援ご協力なしには成り立たない科目であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(産業社会交流科目担当 金早雪)

2005年度講師一覧(五十音順、敬称略)

Table with 4 columns: 氏名, 入学年, 勤務先. Lists lecturers for 2005, including 石黒秀幸, 内川暢子, 金東チヨル, etc.

Table with 4 columns: 氏名, 入学年, 勤務先. Lists lecturers for 2005, including 吉田豊, 安藤次重, 市河重彦, etc.

歴代講師一覧(敬称略)

Table with 4 columns: 氏名, 入学年, 勤務先. Lists past lecturers, including 高見沢賢司, 上條賢吾, 清水健次, etc.

寄稿

出会い

副会長 西村 隆志
(1972年入学)

昨年、同窓会の副会長を拝命いたしました西村でございます。同窓会発展のため、微力ではありますが、矢口同窓会長を補佐し、自らも努力を重ねて参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

私が学部(当時は人文学部経済学科)を卒業した二八年前から見れば、私自身はもとより大学を取り巻く環境は何かも大きく変わりました。例えば国立大学が法人化することを当時は誰が想像したでしょうか。

それでも、卒業生である私にとっては変わらないものがあります。それは、大学生活を通じて人とのお付き合いです。特にその中でも恩師である神林先生との出会いは大変大きなものでありました。今もって私の生き方に大きな支えとして残っております。先生は現在、実業界で活躍されており、私も先生の驥尾に付したいと願っているところですが、なかなか追いつかないのが実情でございます。

他にも、同窓生、大学の諸先輩、大学外の諸先輩の方々の出合いを通じて、多感な中にも人生を見つめ直して卒業したことが、いまだに支えとして続い

ております。

きつと、皆さんもこうした出合いをたくさんお持ちのはずです。同窓会としては、こうした思いを持つ皆様の交流の充実を図るとともに、実社会への旅立ちの基点である経済学部の益々の発展に少しでも資することが同窓会の使命であると認識しております。最近では経済学部の活動に対する支援や信州大学同窓会連合会への参画など伊東前会長、矢口会長のもとに活動の充実が図られております。

自らの微力を恥じながらも、皆様の同窓会活動に対する一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

矢口会長新体制へ
ご支援を

監事 伊東 一雄
(1978年入学)

平成一六年(二〇〇四年)十一月の総会まで会長を務めました伊東一雄です。

皆様のおかげで昨年の総会におきまして無事、矢口晋司新会長にバトンタッチすることができました。矢口晋司さんには、副会長職から無理をいって半ば強制的に会長就任をお願いしてしまいました。私自身、これまで十分な同窓会執行体制を確立することができなかったために、中途半端な形で引き継ぐことと

なってしまう、誠に心苦しく思っている次第です。

平成十一年(一九九九年)一月に林三代治(一七)前会長から成り行きで会長職を引き受けてしまつて以来五年間、経済学部同窓会の発展に尽力するどころか、同窓会運営の停滞を招いてしまい、その責任を痛切に感じております。

その間、同窓会運営につきましては経済学部の先生方に全面的にバックアップをいただき、特に小湊繁教授、青才高志教授、村上範明教授、樋口均教授に頼りつ放しで、大変にご面倒をおかけ致しました。学部の先生方のご尽力に対しまして、改めて厚く感謝を申し上げます。本当にご支援、ご協力ありがとうございます。

いよいよ経済学部同窓会は、矢口晋司会長のもとで新しい執行体制がスタートいたしました。まさにエースの登場です。昭和五七年(一九八二年)三月経済学部同窓会発足以来、ずっと役員を務めてまいりました矢口新会長は、同窓会運営について熟知している上に、会長として実力も兼ね備えておりますので、経済学部同窓会の真の発展にきつと尽力してくれるものと期待しております。

私も矢口晋司さんに会長をお願いした責任上、同窓会役員にとどまり、監事として同窓会の運営に参画していくこととなりました。矢口会長以下役員の皆さんと一丸となって、同窓会の

活性化、更なる発展のために微力ながら努力していきたいと思っております。

昨年五月から久しぶりに松本勤務(長野県松本地方事務所総務課)となり、松本市内に転居したため、経済学部へ直ぐに行けるようになりました。

信州大学は独立行政法人となり、少子化のもと大学生の減少が叫ばれる中、経済学部自体もその真価が問われる、大学として正念場を迎えようとしています。

同窓会といたしましても大学の学部の一層の発展のために、お手伝い、貢献することが期待されています。経済学部同窓会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

正月百人町詣

理事 高木 保夫
(1977年入学)

大学卒業後、大内力先生のご自宅へ年始に通わせていただいた。そこでの学恩を再録したい。食い物談義が中心の講義?でした。

二〇〇二年一月三日1時50分手塚伸君、小林俊文君、内藤耕君とお訪ねする。節子夫人が、遠方よりようこそと笑顔で迎えてくださる。

イスラムでのプラスチック爆弾報道から、一神教談義。神サマが一人なのは不合理だと先生。2時20分ワンゲル部のOBであ

る鳥居、岡崎、鈴木先輩が到着する。午年で、先生の年男談義。客問を囲む午コレクションを眺めなおす。偶蹄目、肉骨粉から肉牛へ、更に食い物談義へとすすむ。酸っぱいものがなくなつた、夏みかん、いちご、りんごと。紅玉はよいとりんご農家の小林君へ先生が話される。コーヒーに添える砂糖スティックが25グラム↓15グラム↓12グラム↓3グラムに変遷してきたと岡崎先輩。先生曰く、野菜の摂取量も減って、中食というへんな言葉ができた、野菜のかわりにトマトジュースやサラダ菜(庖丁なしで食せる)が増えた。もつと煮た野菜を食べるべきだ。フランスでは、農家が郷土料理でもてなすことに補助金を出している。主婦を相手に料理講習会をおこない、昔の物語を伝える。土地改良事業よりもするべきことがある。同40分吉田先輩着。

信州大学のロースクール構想進展中、渡邊、又坂君かと先生しばし松本時代を回想される。岡崎先輩から森法律事務所には二〇〇人の弁護士がいる。日立製作所もアメリカと知的所有権の係争あり。アメリカの真似をしないとやっつけていけなくなつて、と発言あり。先生応えて、アメリカの弁護士は日本の20から30倍いる。裁判のための産業ができています。税金の申告事務所になつています。手塚君が都のホテル税について解説。先生応えて、戦前の地方税に自転車税(目的税)があつた。オランダ、

ウイーン、デンマーク、北京は自転車専用道があると教示される。3時15分杉崎先輩着。東大の財政学は四人になったね。林君の弟子である神野君や慶応の金子君も活躍。林君は、地方財政の総元締めになった。彼のほんこがないと起債ができないと先生。伊藤源、中山先輩着。中山先輩のご子息が東工大の数学を教鞭から、ドイツには数学学部があること、戦前岩波から柴垣先輩の父君が数学の分冊を出されていたことなど先生が話される。理学部長をされた小平邦彦さんの幾何、数学史は面白かった。森毅さんの父上は、入学試験をつくる名人で、一高の先生で我々ならつたと先生回顧される。

内藤君から、政策的にインフレにもつていく手段はないかとの提議あり。成熟した国はインフレにならないと先生応じる。グローバルゼーションでは、輸入が安くなる。野菜すら半分輸入している。飛行機から一万円札をばらまいてはどうかと先生揶揄される。内藤君が披瀝した神野直彦さんは消費税下げると不動産を買うという説に、吉田先輩は消費税を徐々に引き上げたら買うだろうと反論する。神田の三井不動産が、四年先まで完売している例も話される。鳥居先輩応じて、新橋の跡地森ビルに、買い換え特例を使って周辺の人が戻ってきていることを話される。ニューエコノミーが株から不動産へ移ってきた。円

安に振った分だけ、銀行の貸し出し率を上げて、銀行を再建しただろうか。

銀行はペイオフしたら、よりサービスが悪くなると先生。ここから学士会館の経営談義へ。かつては、学士会館で結婚式をやるのが親の夢だった。年間二千組の結婚式があったのに、現在は百組。二万人卒業しても、学士会に入るのは三千人。まだしも法学部は五割入会してくる。学士会ドットコムは、生涯同じアドレスでよい。

メールから、ワングルのメーリングリスト、マスコミ学会、社会問題研、新聞談義へと進む。論説がだめになったのは記者室が不勉強、足で書いていた記事が少ないと先生。高齡協、特攻隊、わだつみ会、無言館、天保銭へと談義は続く。

ジャムは紅玉がいい。多いに復活させて、宣伝すればお菓子つくる人喜ぶ。袋かけもせず虫ついてもよいことにして省力化してはと先生、りんご農家の小林君に提案する。だんだん酸味が無い方向に進んでいると中山先輩。辛い大根がなくなった、デザートでもちつとも辛くない、旨いおろし大根ないかと先生。野菜は、それぞれの土地のものが一番旨いの、ネギすら労賃10分の1の中国から輸入している。百人町の八百屋は、朝鮮野菜ばかり増えてしまったと先生。更に仙台の笹かま、新幹線による消費行動変化、長野駅の変容、英国の生活様式、スペインの

シエスタ等々先生の講義は、4時間に及んだ。節子夫人のおもてなしにと食い物談義で満腹、満足の酔客一同、6時過ぎに先生邸を辞して百人町の夜へ散った。

信州大学から「知と文化のビジネスモデル」を

理事 手塚 伸
(1978年入学)

早いもので、信州大学を卒業してから二三年近くが経過した。今四六歳なので、とうとう働きだしてからの年数が穀潰しであった年数を上回ってしまった。正に感無量としか言いようがない。

今思い出しても学生の時代は楽しく懐かしい。そして、その裏側に、信州という風土があったことも否定しようのない事実である。長い年月を積み重ね、私も大学も大きく変わったが、どちらも別な人格になったわけではなく、良きにつけ悪しきにつけ信州から発せられる伝統が残っていることと思う。

この年月の間、様々な状況変化があった。なんと、近い将来「大学全入時代」がやってくる。大学・短大の募集定員と志願者数が一致することから、理論的には選り好みさえしなければ誰でも大学に入れる時代がやってくる。

「受験戦争」「蛍雪時代」などという言葉が存在感を持っていた私たちの年代では考えられない

いことである。考えられないと言え、国立大学は現在存在せず、国立独立行政法人である信州大学が存在していることも同様である。

さて、この二つの事柄の基礎に横たわる問題は実は同じ深刻な問題、つまり、我が国の国力が、このままでいけば間違いなく損なわれていくであろうという事実である。推計し直すたびに小さくなっていく人口増加率と大きくなっていく高齢化率に「国」自体の老いを重ね合わせ、怯えているのが私たちではないか。特に、地方圏にこの「怯え」が大きいように感じる。

これまでに我が国には三回の人口減少期があったといわれている。その内一回は戦争に起因するものであるため省くが、残りの二回は平安末期、鎌倉後期と言われている。その時代に、この国がどのような対応をしたかという「文化」で立ち向かった、と考えられている。平安文化や鎌倉文化が栄え、その結果、国は平静を取り戻していった。

問題があれば過去に学ぶことを恥じる必要はないとすれば、やはりこの難局に文化で立ち向かうことが理性的と考える。そして、この観点から見直さなければならぬのが、多様性のある個性的な地域力とそれを支える知の集積地としての「大学」であるかと思う。

さらに、文化で難局に立ち向かうとすれば、学問領域や産学官、所属組織を超えて「知のビ

ジネスモデル」文化のビジネスモデル」を確立することが地方の大学に今、求められている。この観点から言えば、求められるのは、様々な視点からの多様な才能を持った人材の集積である。こう考えたとき、信州大学の同窓会に揃う多士済々の卒業生の存在がクローズアップされる。

今日の地域や地方大学がおかれた状況を考えると、有効な処方箋として、同窓会のあり方を単なるノスタルジアからナレッジワークに変えること、そして、上記のビジネスモデルの創造に向けて大学と同窓会とがコラボレートしていくことが、今正に求められているのではなからうか。

入学試験の思い出

理事 田丸 徹郎
(1984年入学)

一九八四年冬、当時、一年に一回、一校しか受験できなかった国立大学の受験日。その大事な日の朝、私は冷や汗を流しながら必死に走っていた。

前年、後に「信大方式」「ユニーク入試」と呼ばれる革命的な入試改革をおこなった信州大学経済学部のある松本キャンパス構内は、その広さに加え、まるで城下町そのものの分かり難さで私の前に立ち塞がっていた。

前日、小雪の舞う中に下見をした際に入った入り口は、その朝使えず、広い敷地を大きく迂

回して、なんとかか大学構内に
入ったものの、経済学部は多数
の受験者を集めており(確か当初
倍率11倍くらいだったような
記憶が...)、自分の受験番号
を確認しながら受験会場を探し
まわり、やっとの思いで大教室
に飛び込んだ時には、既に試験
説明が始まっていて、説明して
いた教官や他の受験生の冷たい
視線を受けながら、何とか試験
開始前に席に着くことができた。
ほとんど受験勉強をしてこな
かった私の最後の砦、あせりと
息切れの中でスタートした試験
は、どんな問題だったかも覚え
ていないが、後日、なんとか合
格通知を受け取ることができた。
そういえば、合格発表日も、
悪友の家にみんなで集まり、既
にみな落ちた気分、ともに今
後の健闘を誓って、一杯挙げて
いるなか、家から電話がかかっ
てきて、「テレビの合格発表に
番号あつたよ。」との妹の言葉。
他大学に落ちた奴から怒突かれ
た記憶が。
あこがれのキャンパスライフ
は、都会のそれとは大きく違っ
ていたかもしれないが、現在の
私にとってかけがえのない師と
めぐり合い、また友人達と青春
を謳歌することとなる四年間は、
すべてあの日から始まったの
だった。



信州大学経済学部同窓会役員

役職・入学年度	氏名	役職・入学年度	氏名	役職・入学年度	氏名
【会長】 1978	矢口晋司	【幹事】 1971	朝倉聡	【幹事】 1986	関谷昌英
		1971	請地康仁	1986	田中雄三
		1972	清水善正	1987	佐野淳一
【副会長】 1972	西村隆志	1972	深見治夫	1987	呂雅恵
1980	大槻正義	1973	伊藤寿康	1988	田中賢太郎
1981	栗沢徹	1973	横内正雄	1988	藤沢利彦
		1974	石原敦	1989	斉藤貴之
【監事】 1978	伊東一雄	1974	今村昇司	1989	高倉茂之
1987	川田智弘	1975	田辺肇	1990	塚原美喜
		1975	中川暢三	1990	西詰宗弘
		1976	松村清文	1991	加藤絵里
【理事】 1968	平林知夫	1976	村山博文	1991	塚原雅史
1977	高木保夫	1977	田中健二	1992	中尾信介
1978	手塚伸文	1977	丹羽洋之	1992	長島加代子
1981	清水匡	1978	小山朗	1993	木野村朗夫
1984	田丸徹也	1978	藤沢佳文	1993	猿ヶ澤顕
1990	澤柳信也	1979	市川喜久夫	1994	友藤貴博
		1979	小林秀視	1994	長澤徹哉
		1980	小笠井雅人	1995	中市川誠樹
【幹事】 1966	清水健次	1980	霜田宏樹	1995	中市川洋平
1966	林三治	1981	河本直樹	1996	尹遠國也
1967	安藤等	1981	熊谷愛一郎	1996	岡田拓也
1967	塚田松雄	1982	熊谷武志	1997	上野朋彦
1968	牛越光政	1982	横山武透	1997	出井孝幸
1968	平林昌廣	1983	金井貴茂	1998	吉村秀一
1969	大口修三	1983	中野良一	1998	吉村秀彰
1969	大田中裕一	1984	中宮阪剛	1999	今増田曉
1970	伊東信行	1984	井上勇一	2000	増田博
1970	神長幹雄	1985	佐々木(白澤)千加子	2001	喜多村博
		1985		2002	黒岩由香

編集後記

昨年11月3日の経済学部創立
25周年祝賀会にあわせて開かれ
た総会から、はや一年、ようやく
本紙の発行にこぎつけた。会
長、学部長をはじめ玉稿をお寄
せくださった会員の皆様に厚く
御礼申し上げます。
大学は、独立行政法人化にと
もなつて大きく変わりつつあり、
大学間競争も激化している。そ
うしたなかで、大学における同
窓会の位置づけも高まり、その
パワーを、どうひき出し、どう
活用するのが、課題の一つに
なっているといつてよいであろ
う。本紙で紹介した本学部の先
輩による講義「現代の産業・社
会事情」も、そのようなパワー
の活用によるものである。今後
とも、さまざまな面において、
会員の皆様の一層のご支援・ご
協力をお願い申し上げる次第で
ある。

本紙の前身は「同窓会だより」
であり、総会の都度簡単な報告
などをおこなう小紙であった。
今回より、紙面を拡大・刷新し
て「経済学部同窓会報」とする
こととなった。会報としては第
一号である。理事会報告にある
とおり、同窓会の活性化の一環
として、本紙を継続的に発行す
ることが決議されている。そこ
で、第二号以降の紙面の内容な
どについて、会員の皆様のご意
見を、本紙一頁に記されている
メールアドレスへ、是非お寄せ
いただきたい。

(事務局)